

共同利用・共同研究課題「チベット・ヒマラヤ牧畜文化論の構築—民俗語彙の体系的比較にもとづいて—」(2021年度第1回研究会)

2021年5月23日(日曜日) 午後13時より午後16時、オンライン開催

プログラム

1. 海老原志穂 (AA 研共同研究員, 日本学術振興会/東京外国語大学)「本共同研究課題の成果公開について」
2. 星泉 (AA 研所員)「チベット・ヒマラヤの民俗語彙の多元性・重層性の解明に向けて:「みんなで用例収集」アプローチ」
3. 岩田啓介 (AA 研共同研究員, 筑波大学)「チベット牧畜文化をめぐる文献資料とフィールド調査の接続」
4. 全員「みんなで用例収集」ワークショップ

===

本共同研究課題の2021年度第1回目となる研究会では、3名の発表と、「みんなで用例収集」と題した、チベット・ヒマラヤの民俗文化に関する情報をデータベース上に入力するワークショップを行った。

海老原発表では、本年度の共同研究会の予定と、研究内容、そして、共同研究の成果発表として、2022年に開催予定の国際チベット学会でのパネル主催と、成果刊行論集についての説明を行った。星発表では、データベースの内容、入力方法の説明、及び、データベースを用いて行った、乳文化、チーズ加工、糞利用に関する体系図が提示された。岩田発表では、データベースを実際に検索することで分かった、現地調査で見聞した事例と文献に記述された事例の共通点と相違点が、屠畜、腸詰め、塩の取引を例として紹介された。

後半のワークショップでは、参加者が各自、文献情報のデータベース登録の作業を行った。実際の作業を通して、文献情報の提示方法などデータベースの改善点についての意見も寄せられた。

3時間程の研究会ではあったが、年度初めに研究会の方向性について話しあい、今後の情報収集の柱となるデータベースの入力についての情報も共有でき、充実した研究会となった。

-----

当報告の内容は、それぞれの著者の著作物です。

Copyrighted materials of the authors.

-----